

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古漢1問、現代文2問)

## 〔大問別講評〕

- 一 古文漢文融合問題。出典：六波羅二藤左衛門『十訓抄』。  
 (本文字数：古文、約 600 字 = 昨年より約 300 字減少。漢文、約 60 字 = 昨年より約 20 字減少。  
 設問数：9 = 昨年と同じ)

小問	難易度	コメント
問一ノ一	易	〔文脈把握〕直後の「臣漸老」と対になっていることに着目する。
問一ノ二	易	〔整序問題〕各単語の接続を把握していれば容易。
問一ノ三	易	〔主語判定〕直前の内容から容易に判断できる。
問一ノ三・	やや易	〔主語判定〕傍線部を含む一文が、『源氏物語』の内容だと把握できれば容易。
問一ノ四	やや易	〔文脈把握〕菅原道真が醍醐天皇から何をもらったのかを読み取る。
問一ノ五	やや易	〔文脈把握〕『源氏物語』の内容を知っていれば容易。知らなくても直後の和歌と照らし合わせれば解ける。
問一ノ六	標準	〔文脈把握〕AとBの漢詩のうち、Cの和歌と共通の内容のものを選ぶ。
問一ノ七	やや易	〔文脈把握〕直前の内容から容易に判断できる。
問一ノ八	易	〔文法問題〕傍線部の「れ」は尊敬。aは受身、cは自発。
問一ノ九	易	〔文脈把握〕傍線部の表現、及び、直後の内容から容易に判断できる。

## 〔総合コメント・今後の指針〕

大問一は、『十訓抄』の一節。文中に漢文があるものの、設問を解くにあたっては、漢文の知識はほとんど必要ではなかった。全体的に基本的な設問ばかりなので、高得点をとった受験生が多かったであろう。ただし、次年度もこの水準の問題が出題されるとは限らないので、油断することなく学習をすすめてもらいたい。

また、『源氏物語』の内容を知っていれば、問一ノ三・ や問一ノ五はかなり容易に解くことができる。受験までに『国語便覧』などで有名作品のあらすじをおさえておくとよい。

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(古漢1問、現代文2問)

## 〔大問別講評〕

二 評論文。自己と他者。出典：熊野純彦『差異と隔たり』。

(本文字数：約3400字＝昨年より約500字減少。設問数：9＝昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問二ノ一	易	〔漢字記述〕2題。このレベルの漢字は容易に書きたい。
問二ノ二	易	〔空欄補充〕空欄の直前が「他者」の言い換えであると気づけば容易。
問二ノ三	やや易	〔傍線部説明〕直後に具体的に言い換えられている。ホは「本質」が誤り。
問二ノ四	難	〔整序問題〕一見、論理的な組み合わせは多数ありそうな難問だが、どの組み合わせでも4番目はへになる。
問二ノ五	やや易	〔傍線部説明〕「他者」とは何かは、本文で繰り返し述べられている。
問二ノ六	やや易	〔空欄補充〕空欄の前後に着目すれば、5行前の答えを見つけるのは容易。
問二ノ七・X	やや易	〔空欄補充〕空欄の前後の語句と並列であることから考える。
問二ノ七・Y	標準	〔空欄補充〕空欄の前後から逆接以外は積極的な根拠がない。
問二ノ八	標準	〔脱落文挿入〕脱落文の内容が、マの直後で詳しく言い換えられている。
問二ノ九	標準	〔内容合致〕テは容易にわかるだろう。フは、「枠どり色づけ」に迷うかもしれないが、他の選択肢は明らかに誤りである。

三 評論文。出典：『埴谷雄高独白「死霊」の世界』、丸山真男『現代政治の思想と行動』。

(本文字数：約2900字＝昨年より約300字増加。設問数：8＝昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問三ノ一	やや易	〔脱落文挿入〕脱落文の内容が、口の直後の内容と対比的なことから判断する。
問三ノ二・X	やや易	〔空欄補充〕夏目漱石が何を書いていたか。空欄の前の行にある。
問三ノ二・Z	やや易	〔空欄補充〕空欄の前後から容易に判断できる。
問三ノ三・a	難	〔空欄補充〕ワと紛らわしいが、傍線部乙の2行前に同義表現がある。
問三ノ三・b	標準	〔空欄補充〕空欄aの2行後に梶井基次郎について述べられている。
問三ノ三・c	やや易	〔空欄補充〕空欄の直前の内容は「人間」の「象徴」であると1行前から判断する。
問三ノ四	易	〔傍線部説明〕ラだけが明らかに異質である。
問三ノ五	やや難	〔空欄補充〕第2・3段落に示された文章の全体像から判断する。
問三ノ六	やや易	〔空欄補充〕Pは「所与性と過去性」、Qは「多面的」と同義を選ぶ。
問三ノ七	標準	〔脱落文挿入〕「仕方がない」が「諦観」の具体例とわかれば容易。
問三ノ八	難	〔記述〕単なる要約的問題ではなく、設問の趣旨の把握が難しい。A・B各々の文章の趣旨の抽出とその共通点の発見が求められている。

## 〔総合コメント・今後の指針〕

大問二は、「自己と他者」をテーマにした評論文。多くの高校の教科書や予備校のテキストで取り上げられている頻出テーマではあるものの、問二ノ四の整序問題を解くのに時間がかかるため、時間に追われた受験生もいたのではないだろうか。入試本番では、制限時間をいかにうまく使うかも重要である。解くのに時間のかかりそうな設問の場合、無理をせずに、他の設問を全て解いてから解く、といった工夫を試みるのもよいだろう。

大問三は、独白形式をとった文章(A)と、「現実」をテーマにした評論文(B)。受験生の多くは、Aの文章のような文体に慣れていないため、読むのに抵抗を感じたかもしれない。空欄補充問題では、「抽象」「象徴」「観念」「恣意」「有機」などの語句の意味を正確に把握していないと解けない設問が出題された。高校や予備校の授業や、評論用語集などで、頻出語句の意味を一つ一つ覚えていこう。

問三ノ八は法学部特有の論述問題だが、今回は、AとBの文章の趣旨を抽出し、その共通点を見出さねばならなかった。そのため、単に本文を要約するだけでは高得点は望めないであろう。受験生にとって、かなりの難問だったのではないだろうか。